

# ポストコロナ社会のオフィスとは？

テレワークを行って見えてきたオフィスの課題解決

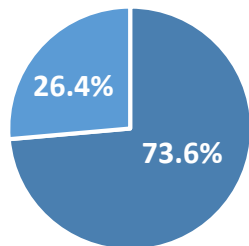


# 緊急事態宣言を機にテレワーク・在宅勤務が推進され、 どこでも働ける環境が整いつつあります。

## 実態： 在宅勤務の実施率は全国平均50.6%

全国平均では50.6%に対し、東京都**73.6%**、  
神奈川**59.1%**、千葉**51.8%**、大阪**53.7%**、愛知**43%**、福岡**59.4%**  
と大都市圏を中心に在宅勤務は行われました。

東京都の在宅勤務実施率



テレワークの課題や問題点があるとするれば、  
東京・大阪の企業がテレワーク、在宅勤務の課題を抱えることにな  
ると言えます。  
これらを解決することが生産性向上につながります。

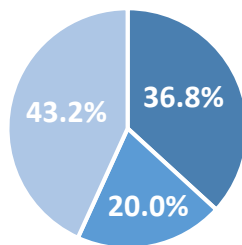
## 同時に在宅勤務の課題も明らかになっています。

### 課題①： 気軽なコミュニケーションが取りづらい

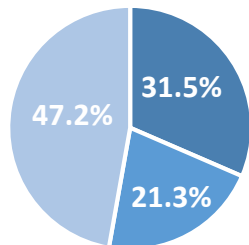
お互い離れて仕事をする場合、チームが上手く連携できる方法を考える必要があります。  
また、人と人が集まり、気軽なコミュニケーションからヒントが出てイノベーションがおこ  
るため、**オフィスには気軽なコミュニケーションを促進する場が必要**です。

「各項目について、在宅勤務にあたって  
どの程度障害になりましたか？」という  
設問に対して、  
「非常に・ある程度障害になった」の回答率

- 非常に・ある程度障害になった
- どちらともいえない
- あまり・全く障害にならなかった、該当しない



同僚・顧客・取引先との  
進捗が見えにくくなった



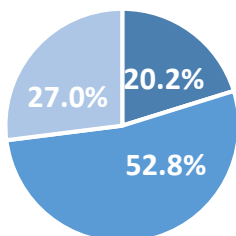
仕事仲間と会話できないことに  
不安や違和感があった

### 課題②： 生産性やモチベーションが低下しがち

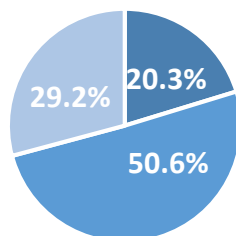
生産性低下、モチベーション低下は会社業績に直結するためクリアすべき課題です。  
定期的に**オフィスでコラボレーションが必要**と言えます。

社員が在宅勤務を行った会社の経営  
者は左記質問に対し20%前後「とて  
も・ある程度悪い結果になった」と  
回答しています。

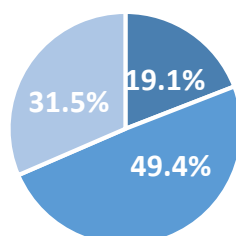
- とても悪い結果になった・ある程度悪い結果にな  
った
- あまり悪い結果にならなかった
- まったく悪い結果にならなかった



生産性が低下した



モチベーションが低下した



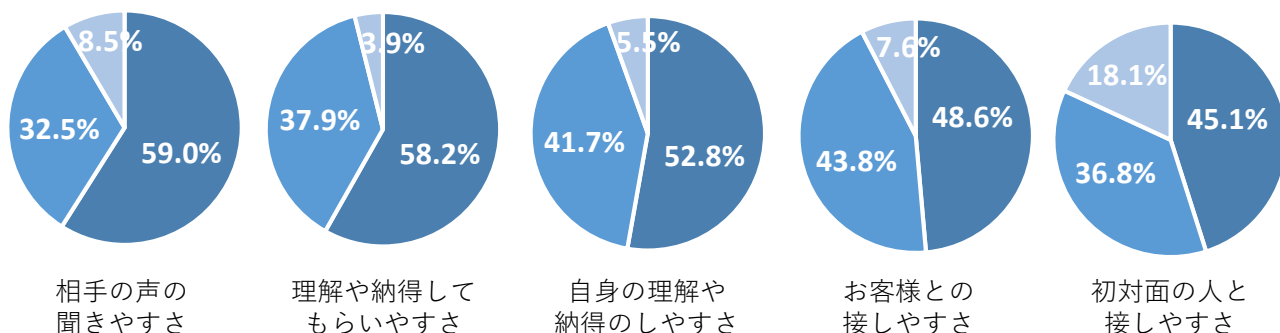
社員同士の意思疎通

# 新しいオフィス・働き方に求められるリクエストとは？

## リクエスト①：Web会議よりも通常の対面の会議の方がコミュニケーションが取りやすく理解度も高い

Web会議は便利だが、通常の会議の方が聞きやすさなどの会話の質が良いなどコミュニケーションの取りやすさや理解度は高い。  
 円滑な共同作業には**コラボレーションスペースが必要**。  
 商談には**来客用面談スペースや会議室が必要**です。

■通常の会議の方が優れている  
 ■どちらも変わらない  
 ■Web会議の方が優れている

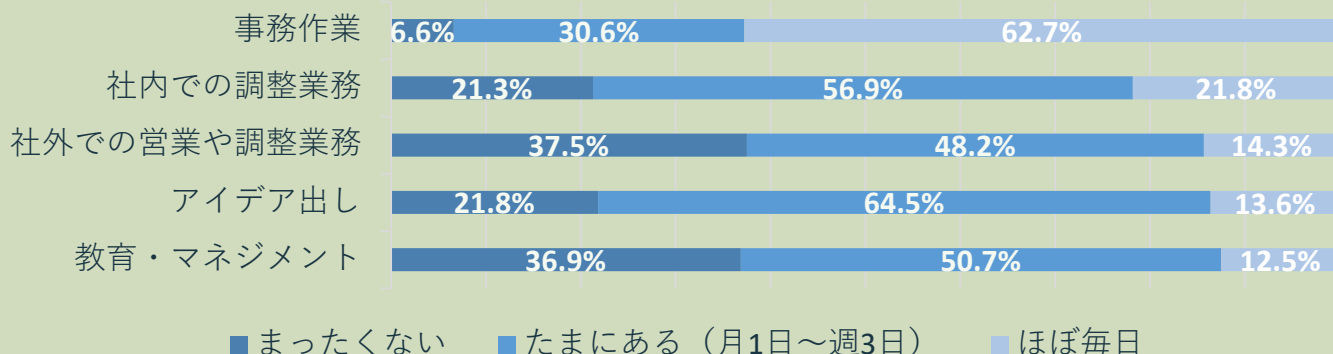


## リクエスト②：在宅勤務は仕事の成果が落ちる傾向にある特にアイデア出しや教育・マネジメントに向いていない

仕事の内容と頻度では在宅勤務で仕事の成果が落ちる傾向にある。  
 在宅勤務ではアイデア出しが難しく、教育、マネジメントに至っては困難をきたします。

→**オフィスでの何気ない会話からのヒント、集中作業スペースでの業務などが重要であり、教育、マネジメントはやはり対面が重要を思われます。**

「在宅勤務中の仕事の内容と頻度は」という設問に対して、「仕事の頻度」の回答率

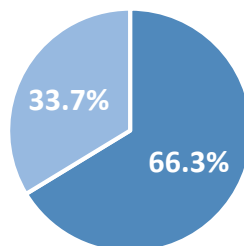


## リクエスト③：在宅勤務した人・在宅勤務しなかった人ともにWeb会議の利用が増えている

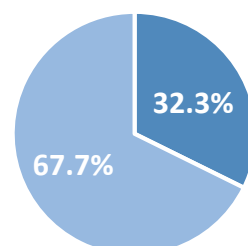
在宅勤務者はWEB会議しかコミュニケーションを取る手段がありません。そのためには、**オフィス側にもチームをつなぐことが出来るWeb会議スペースが必要**です。

「緊急事態宣言発令中にあなたはWeb会議を利用しましたか？」という設問に対する回答  
在宅勤務した人で66.3%、  
在宅勤務しなかった人で32.3%が利用した

■ Web会議を利用した  
■ Web会議を利用しなかった



在宅勤務した人

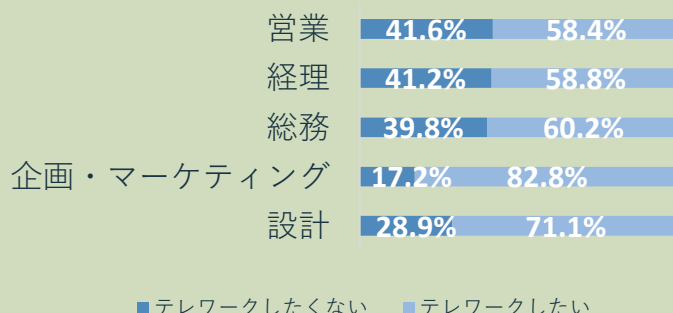


在宅勤務しなかった人

## リクエスト④：バックオフィスが必要な理由 在宅勤務に向けた職種と、向かない職種

営業・経理・総務は比較的テレワークしたくない。  
企画・マーケティング・設計はテレワークしたい。

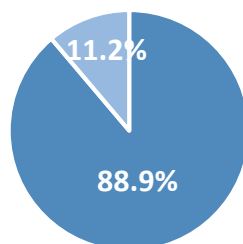
経理、総務など在宅に向かない部門は効率よく業務が可能なオフィスに**バックオフィススペースが必要**と言えます。



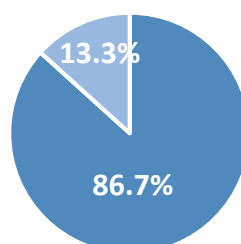
## リクエスト⑤：テレワークしたい理由

テレワークをした理由は「通勤時間の負担軽減」「時間の効率化」で「**仕事の成果のため**」は少ない。

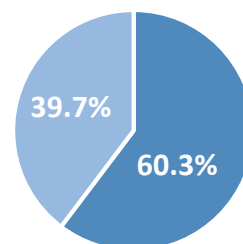
→**成果意識をアップさせるにはオフィスでの業務も重要なファクターであると思われ**ます。



通勤負担軽減のため



時間の効率化のため  
(着替え・メイク・家事など)



仕事の成果のため

■ そう思う  
■ そう思わない

# 在宅勤務の課題を解決する 新しいオフィスが求められています。

## 結果①：

### 新型コロナウイルス収束後もオフィスは必要

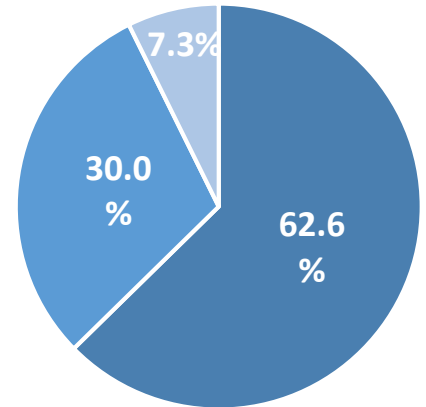
「新型コロナウイルス収束後、あなたが働いているオフィスは必要だと思いますか？」という設問に対する回答

「これまで通り必要」 **62.6%**

「これまでと違った形で必要」 **30.0%**

ワーカー自身が形は違っていてもオフィスが必要と考えています。

従前のデスクが並んでいるオフィスではなく、  
コワーキングスペースやコラボレーションスペース、  
**WEBミーティングスペースなどのワークモード別の  
オフィスが必要**と言えます。



- これまで通り必要
- これまでと違った形で必要
- 必要ではない

## 結果②：

### 新型コロナウイルス収束後、自社のオフィスの規模 またはレイアウトを見直す経営者は31.4%

「（経営者に対する質問）新型コロナウイルス収束後、あなたは自社のオフィスの規模またはレイアウトを見直しますか？」

という設問に対する回答

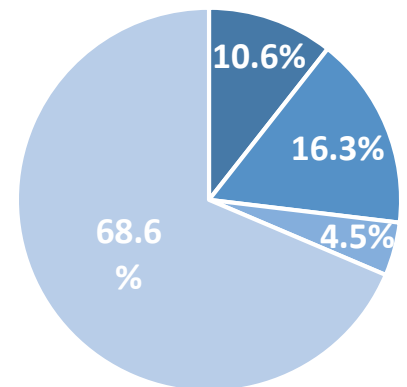
「レイアウトを見直す（現状から面積縮小）」 **10.6%**

「レイアウトを見直す（現状の面積維持）」 **16.3%**

「レイアウトを見直す（現状から面積拡大）」 **4.5%**

テレワーク勤務者が増えるに従い従前のオフィススペースは不要になってきます。

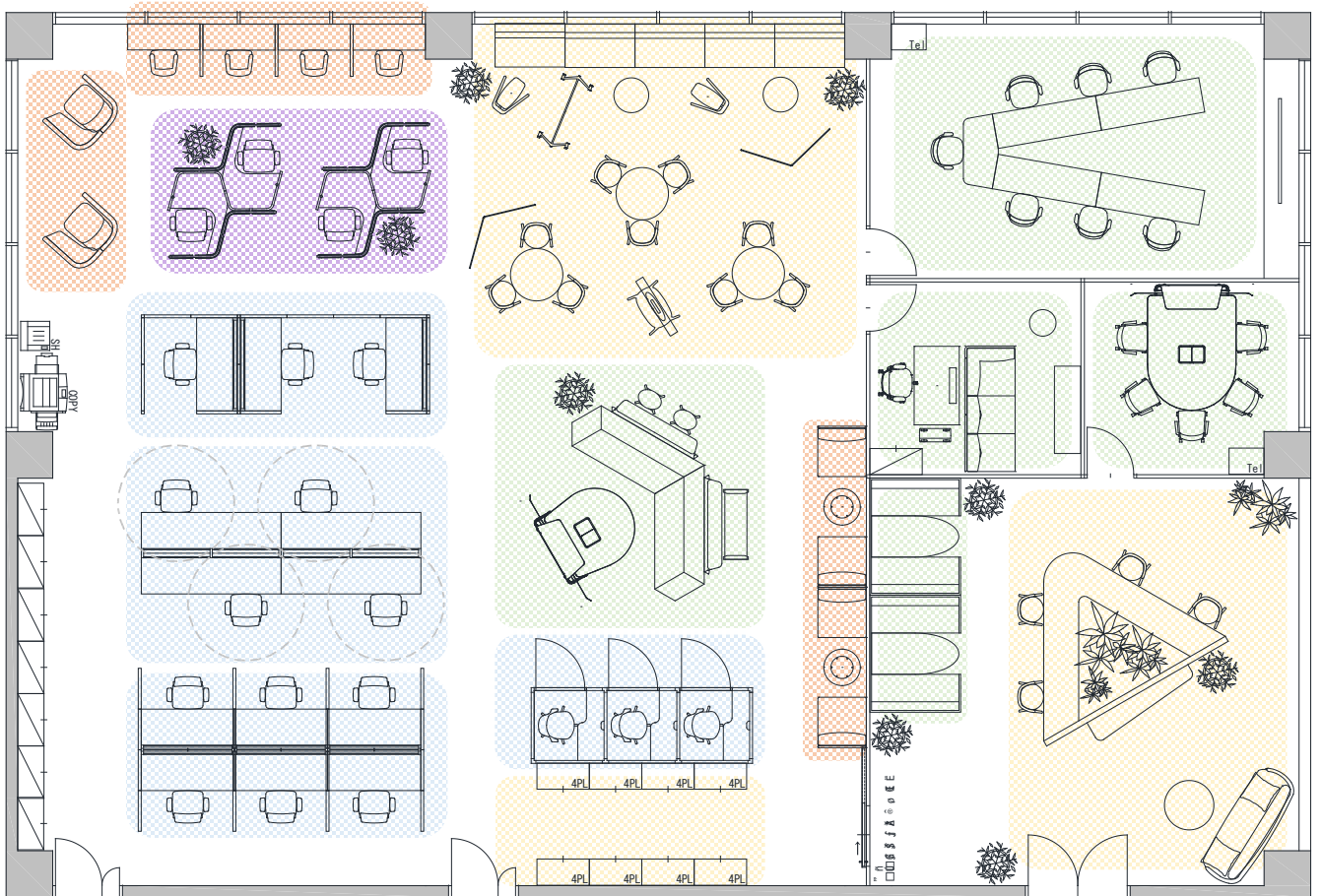
不要スペースの縮小においては効果的なオフィスに見直す必要がありますし、現状維持であればコラボスペースなど  
**イノベーションが起きるオフィスに見直す必要があります。**



- レイアウトを見直す（現状から面積縮小）
- レイアウトを見直す（現状の面積維持）
- レイアウトを見直す（現状から面積拡大）
- レイアウトを見直さない

# ゾーニング | ワークモード

テレワークの導入で見えてきた自宅でのスペース不足、コミュニケーションの不足、WEB会議のスペース・設備確保、顧客との交流等の課題にオフィスだからこそできる仕事のためのワークモードを用意することでポストコロナの課題に答えるオフィスをご提案いたします。



## ① 執務・集中



## ② コラボレーション



## ③ 社交・交流



## ④ 学び

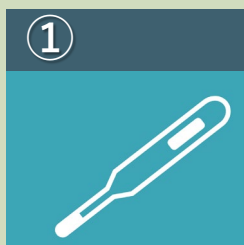
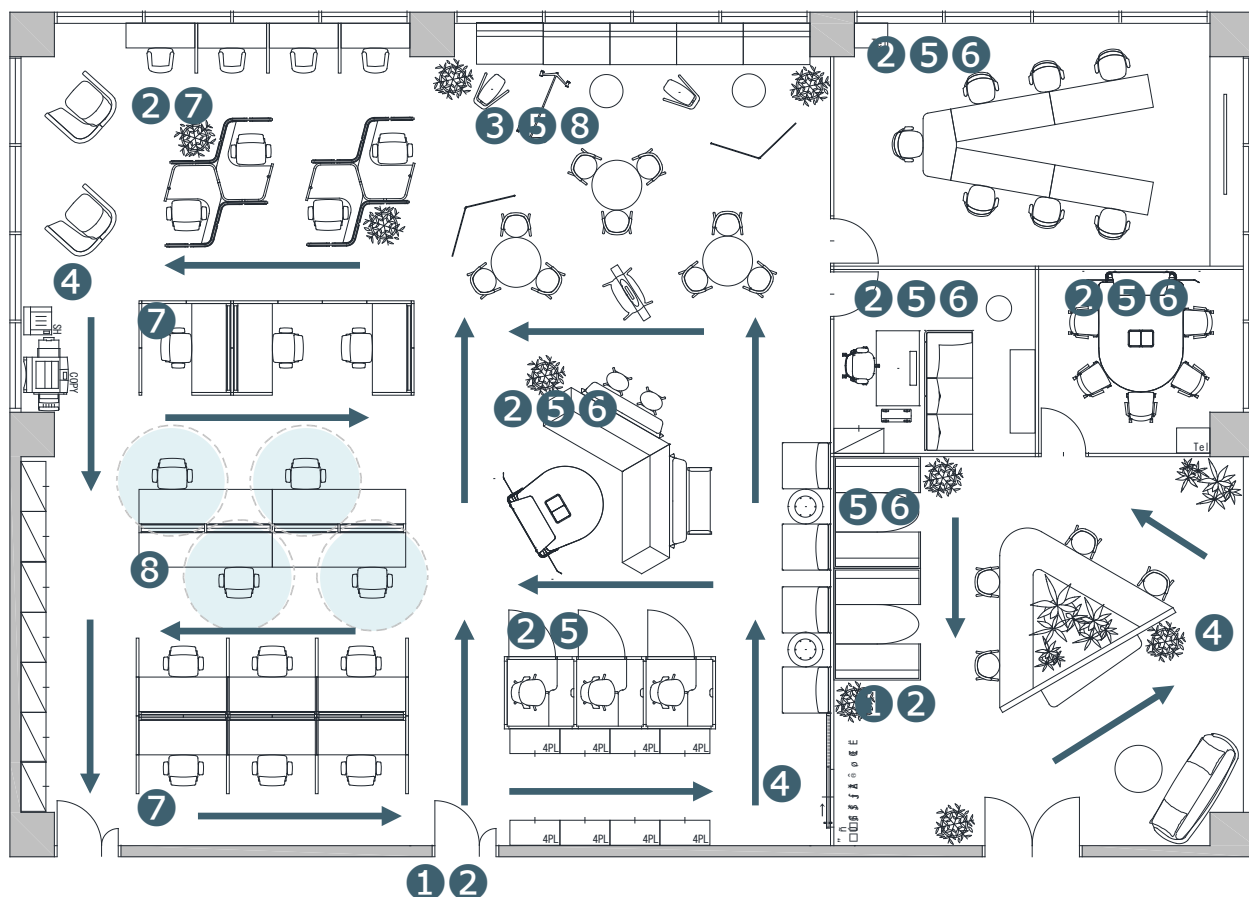


## ⑤ エネルギーチャージ

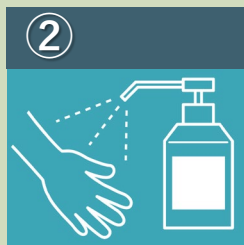


# オフィスに社員を戻すための用意

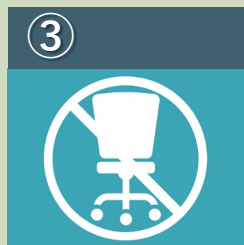
社員をオフィスに戻すためには健康と安全を確保するための仕掛けを用意する必要があります。



① 入口での  
体温検査



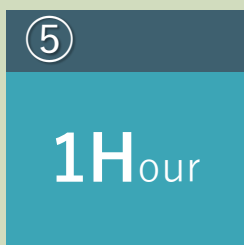
② アルコール消毒  
の設置



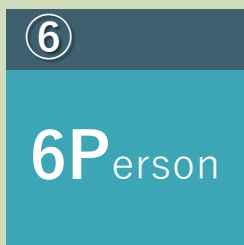
③ タスクポイント  
の限定



④ 一方向ルート  
の設定



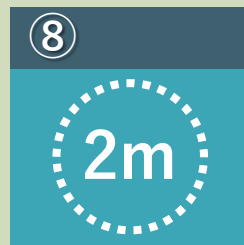
⑤ 利用時間  
の制限



⑥ 利用人数  
の制限



⑦ スクリーン・パネル  
による飛沫対策



⑧ 距離の確保

# スペース マップ

## A フォーカス&リラックススペース

### アイデア出し

- リラックスしながら身体と脳を支えて隠れ家的で快適な集中が出来ます。
- 窓面（景色）に向かったブース席で集中と日常のマンネリ化から解放されエネルギーチャージをしながらのワークが可能  
→リクエスト②

## B コンセントレーションスペース

### 情報・知識のインプット

- 囲われた空間では周りを気にせず新たな情報や知識の吸収に集中できます。
- 周囲を気にせずWebセミナーなどへの参加できます。  
→リクエスト③

## C ソサエティスペース

### 気軽なコミュニケーション アイデア出し

- 場所が人を呼び、人が人を呼ぶ交流循環環境です。
- オープンスペースでインフォーマルコミュニケーションで新しいアイデアの創出に繋がります。
- スクリーンで仕切る事で個の集中も促します。  
→課題①/リクエスト②

## D テクノロジーコラボレーションスペース

### 気軽なコミュニケーション 意思疎通

- テクノロジーが人と情報をつなぐコミュニケーションの実現でき組織内に分散する情報、個人の持つ情報が全体で共有できます。
- ラウンジ型で少人数のミーティングをサポートするためにデザインされリラックスした雰囲気のコラボレーションが創出でき意思疎通が促進されます。  
→課題①/課題②

## E プライベートブーススペース

### WEB会議ルーム

- 遠方とのコラボレーションが可能となり従来の働き方からより効率的な働き方が実現されます。
- ブースにする事で周りへ、また周りからの騒音をシャットアウトしWEB会議に集中できます。
- 同時にオフィスの在席率を下げ密の回避にもなります。  
→課題①/リクエスト③



## F バックワークスペース

### バックオフィスの必要性

- 在宅では完結出来ない業務を飛沫防止スクリーンとソーシャルディスタンスで感染防止を考慮しながらバックオフィスとして効率の良い業務を行います。
- ホテリング席で仕事をする事で集中と接触を減らす事が出来ます。  
→リクエスト④



## G コネクトスペース

### アイデア出し

#### 偶然のコミュニケーション

- 対面やサイドバイサイドのやりとりする事で個人で集中、チーム・メンバーのミーティングも可能となります。
- 動線に配置されたスペースでは偶然出会ったワーカーの雑談から新たなアイデアが生まれる可能性があります。 → **リクエスト②**

## I クリエイティブスペース

### 意思疎通

#### 情報・知識の共有

- クリエイティブルーム
- 毎日会わないチームメンバーが集う時に効率の良いコラボレーションをします。
- スピーディーな視覚化やアイデアを共有でき創造性を育てられます。また、肩を並べながらの信頼関係を築き共創が可能です。 → **課題②**

## J デジタルダイバシティスペース

### 教育

#### マネジメント

- デジタル情報に平等にアクセスし双方向の多様なコラボレーションが可能で、ビジネス目標の達成に貢献できます。 → **リクエスト②**



## H カンファレンススペース

### WEB会議よりface to face

- 対面する事で、相手の表情が分かり複数人での同時コミュニケーションが取れます。 → **リクエスト①**

## K ウェルカムスペース

### 気軽なコミュニケーション

#### WEB会議よりface to face

- 社内、社外問わず、たわいもない雑談からヒント出てイノベーションに繋がります。
- オープンなミーティングを可能にすることで多目的利用の幅を広げます。
- 対面する事で、相手の表情が分かり複数人での同時コミュニケーションが取れます。 → **課題①/リクエスト①**

# アプリケーション イメージ

## ① フォーカス



身体と脳を支え、快適な集中

## ② リラックス



日常からの解放

## ③ コンセントレーション



情報・知識のインプット

## ④ ソサエティ



場所が人を呼び、人が人を呼ぶ

## ⑤ ソサエティ



新しいアイデアの創出



## ⑥ ⑦ バックワーク



テレワーカーをサポートする効率の良いバックオフィス

## ⑧ テクノロジーコラボ



テクノロジーが人と情報をつなぐ

⑨ WEB会議



遠方とのコミュニケーション

⑩ パーソナルロッカー



個人PCの収納

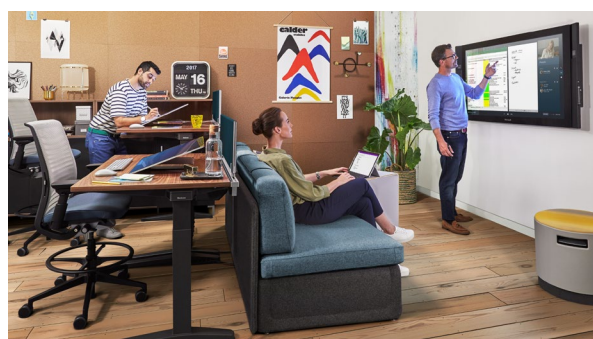
⑪ コネクト



偶発的なアイデア



⑬ クリエイティブ



アイデアの共有・効率の良いコラボレーション

⑭ デジタルダイバシティ



双方向の多様なコラボレーション

⑫ カンファレンス



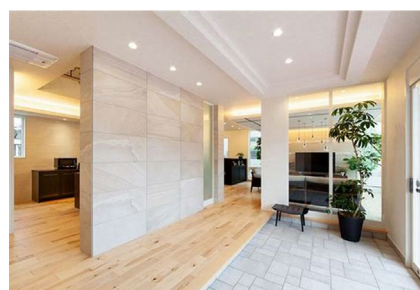
Face to Faceコミュニケーション

⑮ ウェルカム ミーティング



社内外のオープンミーティング

⑯ ウェルカム エントランス



多目的利用



# KUROGANE

株式会社くろがね工作所  
[www.kurogane-kks.co.jp](http://www.kurogane-kks.co.jp)

東京 〒105-0014 東京都港区芝1-10-13 芝日景有楽ビル  
TEL. 03-5439-9111 / FAX. 03-5439-9115

札幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西7丁目3 (北一条第一生命ビルディング)  
TEL. 011-281-2373 / FAX. 011-281-2367

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 (御幸ビル)  
TEL. 052-253-6985 / FAX. 052-253-6986

大阪 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-24 (大阪四ツ橋新町ビル)  
TEL. 06-6538-1012 / FAX. 06-6538-7434

広島 〒733-0001 広島市西区大芝3-13-5 (イトービル3)  
TEL. 082-962-1462 / FAX. 082-962-4662

山口 〒753-0074 山口市中央5-15-20 (オデオンK)  
TEL. 083-928-6115 / FAX. 083-928-6108

福岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1丁目2-21 (Wビルディング渡辺通)  
TEL. 092-523-1440 / FAX. 092-523-1442